

日本吃音・流暢性障害学会第11回大会準備委員会ポストコンgresのご案内：
本企画は科学研究費補助金 基盤研究B(課題番号:20H01703)(研究代表者:筑波大学 宮本昌子による研究の一環として企画され資金が提供されています。さらに、つくば市の塚田純夫様から寄付をいただくことにより開催が可能となりました。心から感謝申し上げます。

Healing and Hope in Telling and Hearing Stories of Stuttering

吃音の体験談から与えられる...、癒しと希望

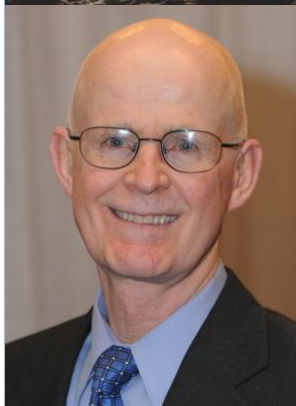
Speaker Kenneth O. St. Louis

West Virginia大学名誉教授

セントルイス先生の3大学での
講演日程が決まりました。

大阪人間科学大学	10月27日(金)	13:00~14:30
広島大学	10月31日(火)	13:00~14:30
川崎医療福祉大学	11月1日(水)	18:00~19:00

参加費無料！
詳細は大会HP
をご覧ください。



講師紹介：ケネス（ケン）・セントルイス先生は、吃音の問題を理解し軽減させるために50年を費やした言語療法士であり、ほぼ回復した吃音者でもあると公表されています。先生は、吃音とクラタリングの研究成果について米国のあらゆる地域で、また国際的に発表し、出版をされてきました。現在は、ウェストバージニア大学を退官されていますが、名誉教授として活躍されています。特に、吃音に対する一般市民の否定的な態度を理解し、緩和するための研究に積極的に取り組まれています。多くの受賞を経験されていますが、主なものとしては、IFA（国際流暢性障害学会）から生涯功労賞、ASHA（アメリカ言語聴覚学会）から栄誉賞の受賞があります。

講演の内容について：セントルイス先生は、ご自身とクライアントが吃音への旅路を経験したことを踏まえ、サポートイブな環境下で、吃音にまつわる自分自身の物語を他者と共有することで、最高の治療法ですら達成できないような癒しが得られることを学ばれました。

吃音に関する個々のユニークなストーリーは、2001年に出版された『吃音とともに生きる：体験談、吃音の基礎知識、リソース、そして希望』という本、2021年に出版された第2版の題材となりました。25年間にわたり、物語に焦点を当てた吃音支援グループを主宰。また2021年には、支援グループ（集団療法）を指導するための手引書『In the Company of Friends：吃音のある人への集団療法』を出版しました。この本には、グループセッションのための100以上のテーマに沿ったプランが掲載されています。問い合わせ先：jssfd2023@miyamoto-lab.net（宮本）